

特技懇活動紹介 (シンポジウム)

特技懇シンポジウム実行委員長
米山 毅

ただいまご紹介いただきました昨年度、シンポジウム実行委員長を務めておりました米山と申します。特技懇創立70周年記念シンポジウム開催にあたりご協力いただき、誠にありがとうございました。本日はスライドを使いまして、このシンポジウムの様子をご紹介いたします。

期日は平成16年11月26日、会場は大手町の経団連会館、そして、テーマは「知財立国を支える知財人材」です。

最初に、特技懇を代表して、小野特許技監から開会のご挨拶をいただきました。

続きまして、竹田稔先生より、「知財立国実現のために何が必要か」と題し、基調講演をいただきました。

パネルディスカッションでは2つのセッションをご用意しました。テーマはそれぞれ、第1セッションでは、知財人材の期待像、第2セッションでは人材育成の方法論です。スライドは、第1セッションのパネルリストの方々です。左から、座長として清水橋本国際特許事務所所長の清水初志先生、中外製薬株式会社知的財産部長の春名雅夫先生、株式会社東京大学TLO代表取締役社長の山本貴史先生、東京大学先端科学技術研究センター教授のロバート・ケネラー先生です。

この第1セッションでは、知財人材には、単に知識を持つことだけでなく、課題の抽出・解決を積極的に行う、柔軟性やバイタリティーが必要という提言がありました。

このスライドは、第2セッションの様態です。第2セッションでは第1セッションを受けまして、人材育成の方法論が議論されました。座長は独立行政法人工業所有権情報・研修館人材開発統括監の高倉成男先生です。続いて画面左から、松下電器産業株式会社T教育研究所アライアンス推進チーム、チームリーダーの一



色正彦先生、東京大学法学部・大学院法学政治学研究所教授の大淵哲也先生、ワシントン大学ロースクール教授の竹中俊子先生、画面一番右側が、太陽国際特許事務所所長の中島淳先生です。

第2セッションの議論の中では、知財人材の育成のポイントは、実践教育が非常に大事で、そのためには各分野の協力と連携が必要である点、各分野の教員の相互交流の機動化、柔軟化、意見交換の場の設置等が必要である点等の提言がなされました。

これは会場内の模様です。ご覧の通り、会場は満席で、会場後方には補助いすを並べるほどの盛況でした。シンポジウムの内容につきましても、アンケート調査の結果、80%以上の皆様から良かったという好評を得ております。

そして、特技懇シンポジウム開催の成果としては、1つには、特技懇会員の皆様が真摯に知財に取り組んでいる姿をアピールすることができました。2点目は、「特技懇」という名前のPR。3点目としましては、これまで特技懇主催行事とは繋がりの無かった、大学、TLO関係の皆様、一般企業の皆様にもご参加いただいたことです。さらには、このシンポジウムの情報は、特技懇ホームページや特技懇誌にも掲載されていますので、会員の皆様をはじめ多くの皆様にお役立ていただければ嬉しく思います。

シンポジウム後の懇親会にも200名を超える大勢の方々に参加していただき、活発な意見交換が行われました。

最後となりましたが、特技懇のますますの発展と、会員の皆様方のご活躍を祈念しまして、シンポジウムの報告とさせていただきます。ご静聴どうもありがとうございました。